



英語コミュニケーションⅡと総合英語Ⅱの授業において、ユニットカリキュラムを実施！

普通科
探究科

5月28日(火)と6月3日(月)に、普通科2年3組と4組の英語コミュニケーションⅡの授業や探究科2年5組と6組の総合英語Ⅱの授業において、地理歴史科の教員とのユニットカリキュラムを実施しました。

英語コミュニケーションⅡと総合英語Ⅱの授業で扱った英文に、スリランカの難民キャンプで、**国境なき医師団**(以下、「MSF」という。)のメンバーとして活躍された **貫戸 朋子**(かんと ともこ)さんが紹介されていました。貫戸さんは、日本で初めてMSFの登録医になられた方で、スリランカの**マドゥー難民キャンプ**で6か月にわたって医師として活動されました。難民キャンプでは、**限られた医薬品と医療機器で治療にあたるため**、MSFの活動はとても困難なものでした。こうした難民キャンプが設立された背景を知るため、**地理歴史科の教員がスリランカ内戦について解説**しました。スリランカは、歴史的な経緯により、独立前から



難民キャンプの所在地を、地図を見ながら確認する

シンハラ人とタミル人が居住していました。独立後は、シンハラ人を優遇する政策がとられたため、**武力によってスリランカからの独立を目指す勢力が生まれました**。こうした背景で始まった内戦であることから、スリランカ政府もMSFの活動に制限を加えるなど、貫戸さんが厳しい環境で活動されていたことを理解することができました。



内戦で起こった出来事と、難民の人数の変化を比較する

生徒は、地理歴史科の教員の説明により、英語で述べられた出来事の背景を理解しながら、英文を読み進めることができました。

探究科3年次の家庭班が、2024年度中国四国地区生物系三学会合同大会岡山大会に参加！

探究科

岡山大学津島キャンパスで開催された2024年度中国四国地区生物系三学会合同大会岡山大会に、探究科3年次の家庭班の生徒1人が参加しました。

5月11日(土)に開催された本大会は、**公益社団法人日本動物学会、公益社団法人日本植物学会および一般社団法人日本生体学会**が主催するもので、家庭班が参加した高校生ポスター発表には、中国地方や四国地方等から25校の高等学校が参加しており、39本の発表が行われました。

家庭班は、日常生活で使用する**衣服に二酸化炭素を吸収する機能**をもたせ、地球温暖化などの**環境問題を解決**することを目指して研究してきました。研究では、衣服に用いる**布に藻類を生息させ、光合成による二酸化炭素の除去**を目指しました。藻類は、乾燥に弱いため、水を供給し続けることが大切で、**寒天培地**を使用して乾燥を防ぐ方法を紹介することができました。参加した高校生ポスター発表は、大学院生などのポスターセッションと同じ会場で開催されており、学会の先生方に加え大学の3、4年生や大学院生から、様々なアドバイスをいただくことができました。



他校の生徒に発表する、家庭班の生徒

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。

探究科3年次の化学1班が、高校環境化学賞の2次審査に進出！

探究科

一般社団法人日本環境化学会が主催する2024年度(第19回)高校環境化学賞に探究科3年次の5つの研究班が応募し、化学1班の2次審査進出と、公民班の奨励賞

2024年度(第19回)高校環境化学賞に応募した研究班の研究テーマと結果

研究班	研究テーマ	結果
公民	紙の分解を活用したごみの削減と資源循環	奨励賞
化学1	アイカゲル ～シリカゲルの吸着熱を利用したアイマスク～	2次審査進出
化学2	プラスチックも種類で分別する時代へ	
生物2	身近な細菌を用いた生ごみの効率的な分解に関する研究	
家庭	二酸化炭素を吸収する布を作る	

(5位相当)受賞が決定しました。高校環境化学賞は、高校生の環境保全への貢献を表彰するために実施されるもので、1次審査には、全国から29本の論文が提出されました。1次審査を通過した4本の発表を評価する2次審査は、7月3日(水)に広島県広島市で開催される第3回環境化学物質合同大会のポスターセッションに併せて実施されます。審査では、大会に参加されている大学の先生方や企業の研究者のみなさんの投票により、最優秀賞と優秀賞が決定されます。



2024年度(第19回)高校環境化学賞に応募した探究科の生徒

2次審査に進出が決まった化学1班は、シリカゲルに水を加えると発熱する現象に着目し、この熱を利用したホットアイマスクの作製に挑戦しました。2次審査が開催される7月3日(水)は、1学期末考査期間中であるため、発表を撮影した動画を提出し、審査を受けることとなりました。また、奨励賞を受賞した公民班は、学校で生じた紙ごみを、段ボールコンポストで処理する方法について研究しました。さらに研究成果を生かして小・中学校で環境教育を推進する方法を提案しました。公民班も、2次審査に併せて開催されるポスターセッションで、動画による発表を行います。



2次審査進出が決めた化学1班の生徒

2つの研究班は、これから動画を作製しますが、研究成果が伝わる発表を目指して、工夫しましょう。



奨励賞を受賞した公民班の生徒

探究科2年次の地理歴史1班が、下関市立考古博物館を訪問しました。

探究科

5月30日(木)の発展探究の授業において、探究科2年次の地理歴史1班の生徒4人が、下関市立考古博物館を訪問しました。地理歴史1班は、綾羅木郷遺跡に残された弥生時代の土器に興味をもっています。綾羅木郷遺跡から出土した綾羅木式土器は、他の地域で出土した弥生時代の土器とは異なり、貝殻を使って文様が描かれています。生徒は、展示されている土器を比較して特徴を見つけたり、土器の破片を組み合わせて復元に挑戦したりしました。また、館外に展示されている竪穴式住居や古墳の内部に入り、観察することができました。これから、研究テーマを設定し課題研究に取り組みますが、調査や観察した結果をもとにしっかり考察し、高校生らしく研究を深めてくれることを期待します。



若宮古墳の内部を観察する生徒



土器の復元に挑戦する生徒